

【第4章:奈良時代と天平文化】

【律令国家の始まり】

< 律令国家の成立 >

→ 朝廷を中心とした中央集権国家の仕組みを作るために法律を整備

→ **701年:大宝律令**を制定

① **大宝律令**

唐の律令にならって作られる

律: 刑罰のきまり

令: 政治のきまり

有力な豪族は高い地位を与えられて貴族となる

② **遣唐使の派遣**

目的: 唐の制度や文化を取り入れるため

③ **710年:平城京遷都**

平城京: 唐の都**長安**を手本にした、**基盤目状**の都
都で開かれる市では**和同開珎**などの貨幣が使用された

【律令国家での暮らし】

①班田収授法

目的:人々に土地を与え税収を確保する。

内容:6年ごとに戸籍が作られる

6歳以上の男女に口分田を与え、死ねば返させる。

②農民の負担

税の種類	内容
租	稲(収穫の3%)
調	地方の特産物
庸	布(労役のかわり)
雑徭	年間60日までの労働
兵役	防人:九州北部の警備 衛士:都の警備

【公地公民の崩壊】

人口増加や逃亡などによる口分田の不足

→朝廷は人々に開墾を奨励

723年 三世一身の法:開墾した土地を一定期間私有できる

743年 墾田永年私財法:開墾した土地の永久私有を認める

→有力な貴族や寺社などは農民を使い、私有地(荘園)を拡大→律令国家の公地公民が崩れ始める。

【天平文化】

建築	<u>東大寺正倉院</u> (校倉造) 唐招提寺金堂
彫刻	唐招提寺鑑真和上像 興福寺阿修羅像など
絵画	正倉院鳥毛立女屏風 薬師寺吉祥天像など
歴史書	「 <u>古事記</u> 」「 <u>日本書紀</u> 」
地誌	「 <u>風土記</u> 」
和歌集	「 <u>万葉集</u> 」(日本最古の和歌集)

①背景:奈良時代に遣唐使を通じて、唐の進んだ文化が日本に伝わる

聖武天皇が仏教の力によって伝染病・災害・戦乱などの不安から国を守ろうとする

②特徴:聖武天皇の時代に最も栄える

唐だけではなく、シルクロード(絹の道)と通じ、インド・西アジアなどの文化の影響も強く受けた、国際色豊かな仏教文化

【仏教】

①流れ

741年：国分寺建立の詔（各国に国分尼寺も建立）

752年：大仏造立の詔（東大寺に造立。行基らが活躍）

754年：唐から鑑真が来朝（唐招提寺に住む）

②建築

正倉院：東大寺の宝物庫、校倉造

③彫刻

唐招提寺鑑真和上像

興福寺阿修羅像など

④絵画

正倉院鳥毛立女屏風

薬師寺吉祥天像など

⑤歴史書・地誌

歴史書：「古事記」「日本書紀」を編纂

→皇室の由来を説明するため、神話・伝承・記録などを基にする

地誌：「風土記」

→各国の地誌として、国司たちによりまとめられる。

⑥和歌集

万葉集：大伴家持がまとめたとされる、日本最古の和歌集

天皇から農民までの約4500首がおさめされている

（特徴）万葉仮名の使用・防人の歌